

身近な情報や話題 充実

新聞読み方講座

最終回の読み方講座で取り上げるのは「地方版」。地元のニュースや話題、生活情報満載で一番読者に身近な紙面かもしれませんね。紹介してくれるのは社会部や運動部に勤務し、愛知と三重で支局長の経験もある田畑皆彦・社会部デスク(五三)です。

(世古絃子)

★ 地方版編

Q 地方版の特徴は。
A 政治面や経済面と違い、行政から事件事故、町の話題まで地域全てのニュースを扱うのが

地方版です。中日新聞は県内版と地域版がそれぞれあり、ページ数は全国紙より充実しています。地域版は、例えば愛知県だと「市民」や「知多」「東三河」など八つあり、きめ細かく作っています。

Q 担当する市民版は。
A 名古屋市内が取材対象です。社会部記者が、頑張っている人を取り上げたり、困っている人がいたら何か支援できないかを考えたりして書いています。

Q お勧めの読み方は？
A まずは右面のトップ記事に

注目。記者が町を歩いて見つけた面白い話、問題意識を持って書いた話など読み応えある内容を選びます。次は左面のトップ記事や右面の肩(トップ記事の左隣)ですね。ニセ電話詐欺や交通事故、火災はタイトルロゴを付けて報じているので注意してほしいです。ほぼ月一回の連載「人情交差点」は銭湯や団地などを舞台にそこに集う人々を描き出します。記者が毎日のように通い詰めて取材し、人と人の直接のつながりの大切さを伝えます。

Q 一面や社会面に載る大きなニュースの関連記事も地方版にはありますか。
A 例えば、名古屋市長選で前副市長が出馬を表明したニュースでは主要部分は社会面に記事が出ましたが、会見内容は県内版に載せました。地方版の関連記事と一緒に読むと内容や背景への理解が深まります。

中日新聞 地方版のレイアウト

場所や取材に合わせ服装

田植えが始まった水田を取材するときはノーネクタイ、長靴。山開きの現場では、登山靴。記者は場所や取材の内容、容に合わせ、服装を変えます。都道府県の県庁や企業のトップに話を聞きに行くときは、スーツを着ることが多い

です。相手との信頼関係は大切です。相手にとって言いつらいことを取材する場合でも、礼節を尽くして対等の立場で話を聞く姿勢が必要です。



写真やコメント できるだけ多く

「あっ友達が載ってる！」。地方版を開くと、友人や近所の人を見つけることが時々あります。展覧会や警察表彰の記事、スポーツ大会の成績、写真…。知っている人が紙面に登場すると新聞との距離も一気に縮まります。

地方版を書く側も、身近に感じてもらえるように工夫をしています。田畑デスクは写真をできるだけ多く載せ、展覧会の記事でも主催者や来場者のコメントを入れるようにしているとい

います。1面や社会面と異なり、記者の署名が多く入っているのも特徴。記者が取材に行くと「あぁ〇〇さん。記事読んでるよ」と言われることも少なくありません。地方版には記者コラムもあり、取材で感じた疑問やうれしかったこと、興味があることなどを素直に書いています。地元を駆け回る記者がどんな人なのか、文章から探ってみるのも面白いかもかもしれません。

新聞とわたし

毎日、朝食前に新聞を讀んで、切り抜きと要約をしています。きっかけは五年生の終わりに自分の剣道の昇級が載ったこと。他の記事も読んだら面白くて、自然と読むようになってきました。よく目を通すのは地域

都政や東京五輪に関心

今の目標はよく読む面をもう一つ増やすことです。同じ面ばかり読んでしまうので、いろんな記事を読んで勉強したいと思っています。(浜松市与進北小六年)



長谷川光紀さん

NIE全国大会名古屋大会は、8月3、4日に名古屋市で開かれます。